

AeEdinet Ver.1.50

利用マニュアルバージョンアップ部分の抜粋

目次

IV. バージョンアップの方法.....	1
<特記事項>2008年XBRL対応新仕様と平行期間への対応方法。.....	1
V. メニュー項目.....	2
1. ツール(T).....	2
[2] ファイル変換説明(H).....	2
[3] ファイル変換→UTF8(U).....	3
[4] ファイル変換→SJIS(J).....	3
3. HTML作成(L).....	3
[5] HTML作成の流れ.....	3
5. 見出し一覧編集(M).....	5
6. オプション設定(O).....	6
VII. リリースノート.....	6

IV. バージョンアップの方法

1. 開発元または販売元から送られた「AeEdinet.dot」を MS-Officeのスタートアップフォルダ(※)に上書きコピーしてください。
※スタートアップフォルダの例：C:\Program Files\Microsoft Office\Office\Startup
2. [AeEdinet(N)]メニューの内容に変更があるバージョンアップで、1.を行ってから、起動してもメニューが変わらない場合は次の手順で修正してください。
 - 一度メニュー[AeEdinet(N)]の「OFF(X)」でメニューを削除する。
 - WORDを一度閉じてから、再度WORDを開く。
 - メニューが表示されていれば、新しいメニュー内容になっています。
 - メニューが表示されていない場合、メニューバーの「ツール」→「マクロ」→「マクロ」でマクロ一覧フォームを表示し「AutoExec」マクロを実行してください。

<特記事項>2008年XBRL対応新仕様と平行期間への対応方法。

1. 「オプション設定」の「HTMLファイル仕様(制限)」を下記の通り設定してください。
 - ファイルサイズ(KB) **1024**に設定。「例外」も同じ数値を設定してください。
 - 文字コード **UTF-8**を選択してください。

- ファイル名パターン **New2008** を選択してください。(ファイル名書式参照)
2. 「見出し一覧編集」の「I列 (新番号指定)」「J列 (XBRL指定)」「K列 (任意名)」を必要に応じ設定してください。
- 例) XBRLファイルに置き換わる「貸借対照表」行と「損益計算所」のJ列は「X」、その行が含まれるカテゴリー (ファンドの経理状況) の全ての行のJ列は「H」を指定してください。(5. 見出し一覧編集参照)

V. メニュー項目

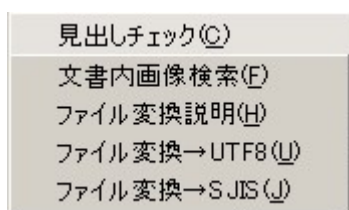
メニューバーの[AeEdinet(N)]をクリックすると次のメニューが表示されます。



- **ツール(T)** ツールメニューを呼び出します。
- **分割指定(S)** HTML ファイルを分割する区切りを挿入します。
- **HTML 作成(L)** 編集中文書から HTML ファイルを作成します。
- **HTML 閲覧印刷(P)** 作成済の HTML ファイルを閲覧、印刷します。
- **見出し一覧編集(M)** 見出しチェック一覧(Excel)を編集します。
- **オプション設定(O)** HTML に使用するフォント等を設定します。
- **ヘルプ(H)** 本文書を表示します。
- **バージョン情報(V)** 本ツールのバージョン番号を表示します。

- **OFF(X)** メニューバーの[AeEdinet(N)]を削除します。

1. ツール(T)



左のツールメニューが開きますので、機能を選択してください。

[2] ファイル変換説明(H)

ファイル変換機能について以下の説明を表示します。

- 既存のテキストファイル (HTML, TXT) の漢字コードを変換します。
 - 【ファイル変換→UTF8(&U)】は **SHIFT-JIS** から **UTF-8** に変換します。
 - 【ファイル変換→SJIS(&J)】は **UTF-8** から **SHIFT-JIS** に変換します。
 - 元ファイルのファイル形式や漢字コードは判断していませんので、ご確認の上変換してください。
- 間違えて変換をしたファイルを元にもどすことはできません。

- ・元ファイルを上書きしたい場合は、変換先ファイル選択するときに元ファイルを選んでください。

変換後、元ファイルは拡張子を bak に変えて保存されます。

- ・html ファイルの場合、正しく変換しても、ブラウザに表示すると文字化けする場合があります

これはヘッダのメタ情報に書き込まれた Charset 情報が元のままのとき発生します。

メモ帳等でメタ情報を書き換えてください

またはブラウザの表示メニューで正しいエンコードを選択してください

[3] ファイル変換→UTF8(U)

漢字コードが Shift-JIS のテキストファイル(HTML ファイル含む)の漢字コードを UTF-8 に変換して保存します。

[4] ファイル変換→SJIS(J)

漢字コードが UTF-8 のテキストファイル(HTML ファイル含む)の漢字コードを Shift-JIS に変換して保存します。

3. HTML 作成(L)

[5] HTML 作成の流れ

以下は「提出本文書」を例として作成の流れを記述しています。

- (1) 文書の最初のセクションに「【表紙】」という文字列があった場合、そのセクションは表紙部分とみなされ【】で囲まれた見出しをキーに表紙データを抽出し、金融庁指定の HTML ファイル名「000_header.htm (旧)」または「0000000_header.htm (新)」が作成されます。
- (2) HTMLファイル名の書式は次のとおりです。

旧-ファイル名パターン：OLD2003 ([6. オプション設定](#)参照)

01001-00.htm

最初の2桁(01)は通常固定です。見出し一覧で番号が指定されている場合([5. 見出し一覧編集](#)参照)、その番号がセットされます。これは別々の文書でHTML作成を行っても、HTMLファイル名を昇順で並べられるようにするための機能です。

次の3桁(001)は連番で振られていきます。上の2桁が変わった場合は1からリセットされます。

ハイフン以下(-00)は「PublicDoc」直下のファイルは固定です。

分割指定によって分けられた(最初が【】見出しでない)ファイルは直前のファイルからリンクされますが、「PublicDoc」直下のファイルのファイル名上5桁のフォルダを作成し(例の場合は「01001」)そこにハイフン以下を1から順に繰り上がったファイル名で作成されます。(01001-01.htm、01001-02.htm・・・)

新-ファイル名パターン：NEW2008 ([6. オプション設定](#)参照)

0102010_**.htm** ****は19文字以内の半角英数小文字

最初の2桁(01)は見出しレベル1の【】タグの番号になります。通常連番で振られますが、見出し一覧で番号が指定されている場合(5. [見出し一覧編集](#)参照)、その番号がセットされます。これは別々の文書でHTML作成を行っても、HTMLファイル名を昇順で並べられるようにするための機能です。

次の2桁(02)は見出しレベル2の【】タグの番号になります。上の2桁が変わった場合は1からリセットされます。

次の3桁(010)は10番刻みの連番で振られていきます。上の2桁が変わった場合は10からリセットされます。

見出し一覧のXBRL列に「H」が指定されていると100番刻みで番号が振られます(5. [見出し一覧編集](#)参照)

見出し一覧のXBRL列に「X」が指定されていると番号は振られますが、HTMLファイルは作成されません(5. [見出し一覧編集](#)参照)

アンダーバー以下(_)は見出し一覧の任意文字列で指定された文字が入ります。指定されていないと「honbun」という文字列が入ります。

分割指定によって分けられた(最初が【】見出しでない)ファイルは直前のファイルからリンクされますが、「PublicDoc」直下のファイルのファイル名上7桁のフォルダを作成し(例の場合は「0102010」)そこに7桁目を1から順に繰り上がったファイル名で作成されます。アンダーバー以下は「sub」になります(0102011_sub.htm、0102012_sub.htm・・・)

5. 見出し一覧編集(M)

MS-EXCEL が起動し「Midashi.xls」が開きます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	行頭指定	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	番号指定	新番号指定	XBRL=X 100毎=H	任意名	
28					資産管理等の概要							
29					資産の評価							
30					申込手続等							
31					換金手続等							
32					保管							
33					信託期間							
34					計算期間							
35					その他							
36					受益者の権利等							
37			ファンドの	経理状況				5	5	H	keiri	
38				財務諸表						X		
39					貸借対照表					X		
40					損益及び剰余金計算書					X		
41					附属明細表					H		
42				ファンドの	現況					H		
43					純資産額計算書					H		
44					投資有価証券の主要銘柄					H		
45					投資不動産物件					H		
46					その他投資資産の主要なもの					H		
47			特別情報									
48				委託会社の	概況						itakugaisha	
49					委託会社の概況							
50					事業の内容及び営業の概況							
51					委託会社の経理状況							
52					貸借対照表							
53					損益計算書							
54					利益処分計算書							
55					利害関係人との取引制限							
56					その他							
57				その他の	関係法人の概況							
58					名称、資本の額及び事業の内容							

(1) I~K列は 2008 年からの新制度に対応した項目です。オプションの[ファイル名パターン](#)で「NEW2008」を選択した場合に、有効となります。

(2) I 列は新制度の番号指定欄です。レベル 1 の場合はファイル名の上 2 桁、レベル 2 の場合はファイル名の 3 桁目からの 2 桁を指定します。表題の番号に該当する数字を入力してください。入力されていない場合はレベル毎に 1 から連番で振られます。入力された番号以降はレベル毎に連番で振られます。

(3) J 列は XBRL で出力される部分を含む行の指定項目です。

「H」が指定されていると 100 番刻みで番号が振られます。XBRL で出力される部分が属するレベル 2 に含まれる行すべてに指定してください。

XBRL で出力される部分そのものの行には「H」ではなく「X」を指定してください。

「X」が指定されていると番号は振られますが、HTML ファイルは作成されません。

K 列はファイル名の最後に付加される文字列です。19 文字以内の半角英数小文字を入力してください。入力されていない場合は「honbun」という文字列がファイル名に付加されます。

6. オプション設定(O)

(1) HTML ファイル仕様 (制限)

金融庁で指定された値がデフォルトになっています。(2003年10月1日現在)
将来、値が変更された場合はここを変更してください。

※例外サイズは現在はパラメータのみで、特に変換に影響はありません。

レイアウト横幅指定はHTMLファイル内のスタイルに設定されます。

フォントサイズ最大最小は見やすい大きさに設定されていますが、より大きいサイズや小さい使いたい場合は変更してください。

「文字コード」は「Shift_JIS」か「UTF-8」を選択してください。2008年以降は「UTF-8」に統一される予定です。

「ファイル名パターン」は「OLD2003」か「NEW2008」を選らんでください。「文字コード」と共に以降期間用のオプションです。

(2) 表紙をセクション単位で変換する。

ここをチェックすると表紙部分以降、次の【】までの間に注等の文書が続く場合、その文書を含めて、変換します。

表紙として変換するのは【表紙】を含む最初のセクションのみです。

(オプションをチェックしないと表単位)

このオプションを使用する場合、表紙を含むファイルは文書の冒頭に【表紙】を置き、

見出し一覧の最初のレベル1に「表紙」を登録してください。

VII. リリースノート

1.50 2007/7/5

- 次期 EDINET の仕様変更に対応して下記の機能を追加しました。
HTML 漢字コードを UTF8 に (現在 : Shift-JIS) する。
HTML ファイル名を金融庁仕様「0000000_任意文字列」に合わせ、XBRL に代替される部分を連番 100 飛ばしにできるように変更。
- 上記機能は新旧どちらの仕様でも出力できるようにオプションとして追加しました。
- メニューに「ツール」を新設し「見出し変換」をツールの中に移動し、次の機能を追加しました。「文書画像内検索」「ファイル変換 UTF-8」「ファイル変換 Shift-JIS」
- 「文書画像内検索」文書内の画像オブジェクトをリストアップして検索できる機能を追加。変換に不具合を起こす隠れた透明オブジェクトを検索することができます。
- 「ファイル変換」既存のテキストファイル (txt、html) の漢字コードを変換します。

- 1.46 2007/6/30**
- 文字サイズの上限定点・下限ポイントは128～7.5だったのをオプション指定にしました。
 - 横並びの表、横並びの画像に対応しました。
 - 表内に画像ファイルがある場合、うまく配置されない不具合を修正しました。
 - 複雑な罫線の指定が再現されない場合があるバグを修正。
- 1.45 2007/6/18**
- 表配置インデントに0を指定すると不正な数値になるWORDの不具合に対応。
- 1.44 2007/6/4**
- 表配置インデントで10mm、20mm、30mm等の時0になってしまう不具合を修正。
- 1.43 2007/5/17**
- 【】キーワード段落が長い場合、字下げが再現しなかったのを修正しました。
- 1.42 2007/5/1**
- 「オプション設定」に「[表紙部分をセクション単位で変換する。](#)」オプションを追加。
 - 表セルの罫線の線種対応を増やしました。
(実線、二重線→実線、二重線、ドット、ダッシュ)
- 1.41 2007/4/24**
- WORD2003以降、段落罫線が再現されなかったのを修正。
※段落罫線は表中の場合のみ変換されます。対応するのは水平線のみです。
- 1.40 2007/1/5**
- 見出しファイルによるファイル名番号付けの自由度をアップした。
(一ファイルで変換しても指定通り番号付けするように変更)
- 1.39 2006/11/29**
- 差込用マージフィールドを使用している文書にも、フィールド展開して変換できるように対応しました。

以上